

埼玉育ちのグローバル人

タイに行きたい！タイを知りたい！

第2回 「タイの旧正月(ソンクラーン)と タイの人々について」



JICA 海外協力隊 2018 年度 2 次隊

伊井 誠 さん



第2回目というところで、現在4月の第三週に執筆しております。タイ人にとってこの時期は一年で一番大切な時期で、4月13日から15日はタイにおける旧正月で祝日にあたり、『ソンクラーン』と呼ばれます。もしかしたらご存じの方も多いと思いますが、ソンクラーンの時期にはタイ全国でソンクラーンを祝うお祭りが開催され、世界的には『水かけ祭り』として知られており、この時期に街に出ると至るところで水かけが行われていて、大きな水鉄砲とかをもった人とか、バケツやホースでの放水などがいたるところで行われ、全身がずぶ濡れになった人々で溢れかえります。中には、氷などを入れる大きなクーラーボックスに水と氷をいれてピックアップトラックの積み荷に載せて、キンキンに冷えた水を通行人にかける人がいたりなど、工夫を凝らして祭りが行われています。



バンコクのソンクラーン祭りの様子

ただ、一見楽しいように見える祭りには問題点もあって、運転しているバイクや車にも容赦なく水かけを行ったり、飲酒している人も多いため、この時期は特に交通事故が多くなったり、度を越えた水かけや飲酒で酔った若者同士の喧嘩騒動に発展したりなども毎年ニュースで報道されていたりします。

また、なぜ、水かけを行うのかという話ですが、「水をかける」という行為が「お清めする」意味だったり、「相手へ敬意を払う」意味があったりして、先月のエッセイで4月はタイで一番暑い時期という話を書いたと思いますが、この「暑さを和らげる」という意味もあり水かけが行われるそうです。ソンクラーン期間中は、街に出かけると人々が見境なく水かけをしていますが、その一方でタイの地方の家では親戚などが集まって年長者の手に水をかける正式なソンクラーンの儀式が行われていたりします。

僕自身もタイに赴任していた2019年の頃に自分の任地のピッサヌローク県のソンクラーン祭りに参加したり、同僚の先生の家族の身内による由緒あるソンクラーンの儀式に参加させてもらって、年長者への水かけをさせてもらったりと良い経験をさせてもらいました。ちなみに現在とはいうと、コロナウイルスの影響で、ソンクラーン祭りの中止や自粛が行われて2020年からは水かけのイベントはまだ行われ

ていない状況です。

ソクラーン時期では多くのタイ人が両親の元に帰省したり、親戚同士が一堂に会するという話をしましたが、タイ人は日本人と比べるととても家族を大事にする人達でもあります。両親と離れて働いて暮らしているタイ人の知人の多くは、毎週のように両親や兄弟に電話をしたり、仕送りをしたり、あるいはお寺にお参りをし、家族のために「タンブン(徳を積むこと)」をしたりなど、日ごろから当たり前のように親孝行をしています。また、成人したタイ人の男性は基本的に人生で一度は出家するようですが、これは母親の来世の為にするもので、人生で一番重要な親孝行とされているという話を友人から聞いたことがあります。



由緒あるお寺で熱心にお参りするタイの人々

タイ人は家族を大切にだけでなく、基本的に見ず知らずの人に対しても親切にする方が多く、僕もタイで活動している期間中に、全く面識のないタイ人から親切にいただいた経験が何度もあつたりします。これはタイが世界でも屈指の観光大国となっている理由の一つに関わるところでもあつて、以前、タイ人になぜタイは観光客が世界的に見ても多いのかその理由について伺ったことがあります。

「微笑みの国」と言えばタイとして知られていますが、その昔タイ政府が海外の旅行客からの観光に力を入れるために観光客に親切して、

観光客に良いイメージを定着させようというプロモーションをやり始めたそうです。というのも、綺麗な観光地は世界中に沢山あるが、また行きたいと思わせるような観光地には現地の人によるおもてなしや、親切さなどによって観光客に強く印象を残すことができている、タイにはそれがあるんだ、という話を聞いて、確かにそれも要因としてあるだろうなと、僕自身も親切にしてもらった経験があつたので妙に納得させられたのを覚えています。



外国人観光客に人気のタイ南部のリペ島